

その場、その時の心得

■ **建物の中で** 一番重要なのは、「自分の命を守ること」。わが家でも、オフィスでも、基本的な心得は同じです。

身の安全を守る

- 机の下にもぐる。
- クッションや手で頭を保護する。
- 家具から離れる。



高層階(概ね 10 階以上)での注意点

- 揺れが数分間続くことがあります。
- 家具類が、大きく移動する危険が加わります。

窓や戸を開け、出口を確保



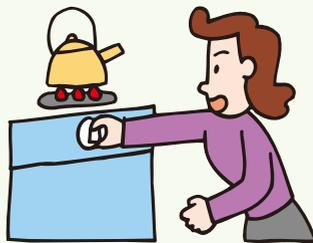
ガラスの破片に注意

- 散乱した室内には危険物がいっぱい。



おちついて火の始末

- やけどに注意。
- ガスコンロの火を消す。
- 電気器具はコンセントプラグも抜く。



大きな揺れのときは

- 身の安全確保を優先
- 無理をして消そうとすると大やけど
- 揺れがおさまったらあわてず消火

あわてて外へ飛び出さない

- 外へ出るのは揺れがおさまってから。



街の中で

その場の状況にあわせた行動をとることが大切です。

車の運転中

- 揺れを感じたら徐々に減速し、道路の左側によせて止まる。可能なら駐車場等へ移動・駐車する。
- あわてて外へ飛び出さず、カーラジオで情報を聞く。
- 車を離れる場合は、ドアはロックせず、キーはつけたままにする。



電車・バスの車内

- 将棋倒しや棚からの落下物に注意する。
- 勝手に車外へ出るのは危険。車内アナウンスや乗務員の指示にしたがう。



- ホームにいた時はカバンなどで頭を保護し、柱や壁、ホーム中央に身を寄せる。

住宅街

- 狭い路地は危険。公園などの広い場所に避難する。
- ブロック塀、自動販売機、古い建物などから離れる。
- ガラスの破片、看板、かわらなどの落下物に注意する。



地下街・デパート・映画館

- 勝手な行動は禁物。従業員の指示等にしたがう。
- 地下は、地上よりは揺れが小さい。停電しても非常灯がつくので、あわてないで行動を。
- しばらくしても明かりがつかない場合は、壁づたいに歩けば必ず外に出られます。



商店街・ビル街

- ビルの壁際で立ち止まらない。公園などの広い場所、丈夫な建物の中などに避難する。
- 窓ガラス、ビルの外壁、古い建物などから離れる。



高層ビル

- 窓際から離れ、身の安全を確保する。
- エレベーターは使わず階段で避難する。
- エレベーターの中にいたら、全階の停止ボタンを押し、止まった階で降りる。
- エレベーターに閉じこめられたら、非常ボタンを押し続け、非常電話で救助を求めろ。



2 地震のときはこうする

すばやい消火

火災発生！初期消火の3原則

大地震の時は、まちのあちこちで同時に火の手が上がって、火災がまち全体に広がることがあります。手遅れにならないように消すことが鉄則です。

一人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。みんなで協力しても火事を消せなかったら、すみやかに避難しましょう。

① 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に協力を求める。声が出なければ、やかんなどを叩き異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火にあたり、近くの人に通報を頼む。



② 早く消火する

- 天井に燃えうつる前までが初期消火の限度。
- 水や消火器だけでなく、毛布でおおうなど、手近のものを活用する。



③ 早く逃げる

- 天井に火が燃え移ったら、避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを開けて延焼を断つ。



大地震時の消火

大きな揺れのときは無理に火を消そうとすると、大やけどをするおそれがあります。

① 大揺れがやんだとき

大きな揺れは、およそ1分前後。揺れの間は身を守り、揺れがおさまってから火を消します。



② 燃え始めたとき

出火しても、1~2分なら燃え広がらないはず。隣近所に知らせて、協力して火を消します。



消火器の使い方

使い方



① 安全ピンに指をかけた上に引き抜く。

② ホースをはずして火元に向ける。

③ レバーを強く握って噴射する。

ポイント ゆっくり あわてず 落ちついて

- 消火器は消火する場所まで運びます。途中で安全ピンなどを抜いたりすると、消火する前に薬剤が噴出する場合があります。
- 燃えているものをしっかり確認します。姿勢を低くして熱や煙を避けながら、火元に向かって噴射します。
- 強化液消火器は壁やふすまなどが燃えている場合は、燃えているものの上の方からかけると効果的です。
- 粉末消火器は風上から掃くようにしてかけます。その後、水をかけて完全に消火します。
- 避難する方向を背にして消火します。

煙からの避難

煙を吸い込まないように「できるだけ早く避難する」「避難したら絶対に戻らない」が基本です。普段から非常口を確認する習慣を付けておくことも必要です。

煙が発生したら

- 横方向に逃げて、煙から遠ざかります。
- 煙が追いかけてこないように、扉を閉めながら進みます。
- あわてて走ってはいけません。呼吸が荒くなり、煙を大量に吸いこんでしまいます。

煙が充満してきたら

- できるだけ姿勢を低くして、進みます。ただし、手やヒザを床につけません。
- ハンカチやタオルなどで、口や鼻をおおいます。
- 方向がわからなくなったら、壁づたいに進んで出口を探します。

○ 煙は、階段などに達すると、ものすごい速さで上昇し、その後、下の階に降りてきます。また、横方向には人が歩くくらいの速さで、天井近くを流れていきます。煙を吸うと、判断力の低下、めまい、吐き気などがおこり、たくさん吸うと、酸欠や中毒などで死に至ります。

2 地震のときはこうする

救出・救護が必要なとき

生き抜くこと

もし、建物などの下敷きになって、身動きがとれなくなった場合、必ず救助の手が差し伸べられることを信じましょう。

自分の所在を知らせる

むやみに叫ぶと体力を消耗します。人の気配を感じたら大声や缶をたたくなどの人工的な音を出し、助けを求めます。

冷静な判断

いたずらに動くことは倒壊物のバランスが崩れて、かえって危険です。

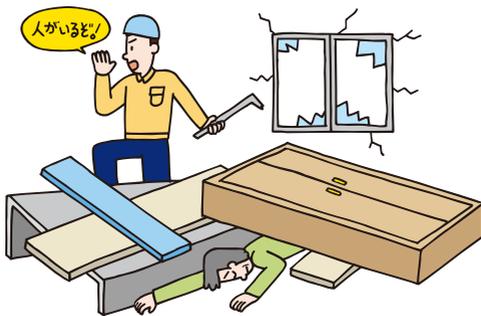


安否確認

自らの安全を確保し、身の回りの火の始末をした後、家族や近所のかたの安否を確認します。特に、高齢者や障害者が近くに住んでいるときは、安否を確認しましょう。

救助・救出活動へ

がれきの下敷きになった人を見つけた場合、大声で協力を求め、力を合わせて助けてください。自分たちだけで救出困難な場合、防災区民組織、消防団や消防署、警察署などへ連絡します。火災の延焼が迫る前に、救出するよう全力を尽くしてください。



救助・救出用具はここにあります

区立小・中学校等の地域避難所の防災倉庫に、簡単な救助用資機材が配備されています。また、防災区民組織の格納庫にも配備されています。日頃からその位置を確認しておきましょう。

救出のポイント

- 声をかけながら取り残されている人の確認をします。
- 周囲の人に協力を求め、自分とはさまれた人の安全を確認しながら作業を進めます。
- 現場付近では、いつどのような形で火災が発生するか分からないので、近くに水や消火器を用意しておきます。
ガスの元栓や電気のブレーカーも必ず切ります。
- 救出する順位は、人命の危険が切迫している人から、あるいは、救出作業が容易な人を優先して救出します。
人命への危険が切迫している場合は、救出と並行して応急手当も行います。
- 無理に引き出そうとせず、障害物を取り除き、負傷者の様子を見ながら行います。
- 柱等を切断又は取り除く場合には、周囲が倒壊しないよう、隙間に物を詰めたり、ロープ等で支持・固定をします。
- 負傷者に対し声をかけ元気づけるとともに、顔色、身体状況の変化に注意します。
- 救出した人は、軽症、中等症、重症の区分により適切な救護所へ速やかに搬送します。



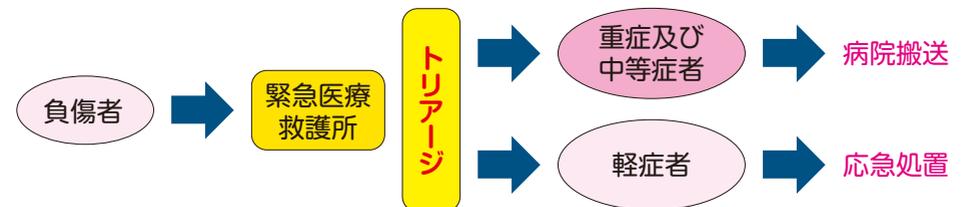
ケガをした人を見つけたら

大震災時には、病院も被害をうけたり、救急車もすぐには来られません。その場合に居合わせた「あなた」の適切な応急手当が、尊い命を救うことにつながります。



緊急医療救護所の設置

発災後、区は速やかに、多数の負傷者の発生に迅速に対応するため、区内病院の敷地内又はその近接地に緊急医療救護所を設置し、トリアージ^(※)、軽症者に対する応急処置及び重症者の搬送調整を行います。
※トリアージとは、負傷者の重症度や緊急性に応じて、治療や搬送の優先順位を決めること



【緊急医療救護所の設置場所】

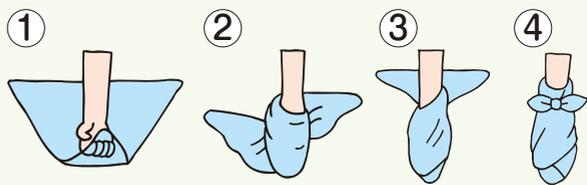
国立病院機構東京医療センター、東邦大学医療センター大橋病院、三宿病院、東京共済病院、厚生中央病院、目黒病院、碑文谷病院、日扇会第一病院、本田病院

三角巾の使い方

●腕のつり方



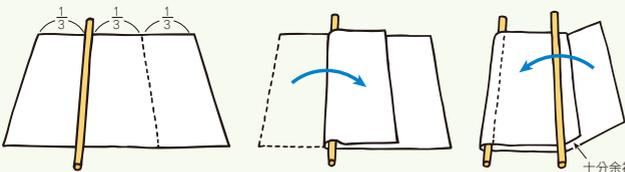
●手の包み方（足も同じ）



※足のときは、かかとを十分に包む。

応急担架の作り方

（準備するもの）毛布またはシーツ数枚、竹棒2本1組



- 1 毛布を広げ、1/3のところを棒をおき折り返す。
- 2 折り返した毛布の端に、もう1本の棒をおき、同じように包む。

十分余裕をとる

止血

出血がひどいときには、すばやい適切な処置が必要です。

傷口を押さえる（圧迫止血）

- 清潔なガーゼや布をあて、手で強く圧迫します。
- 包帯があれば、ガーゼや布の上から強く巻きます。
- 止血するまで続けます。
- 傷口を心臓より高い位置にします。
- 指圧止血

圧迫止血で止まらなければ、図のように止血点（脈拍を感じる場所）を押えます。



❌ してはいけないこと

傷口は、汚れた手や布では押さえません。感染、悪化などのおそれがあります。

止血帯を巻く

- 止血帯は最後の手段
止血帯は完全に止血できる反面、組織を腐らすなどのリスクもあります。
次の点に十分注意してください。
- 圧迫止血ができないときや、圧迫しても血が止まらなかったときには、止血帯を巻きます。
- 傷口より心臓に近い部分を、タオルやスカーフ等の幅の広い布で硬く結びます。棒などを結び目に差し込み、回転させて、血が止まる程度で固定します。
- 止血帯を巻いた時間を記録しておき、30分に1回は止血帯をゆるめて血液の流れを再開させます。

❌ してはいけないこと

止血帯には、ヒモや針金などの細いものは絶対に使わないでください。

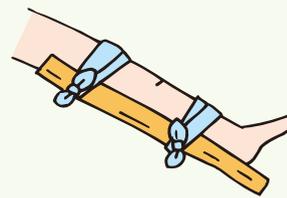
骨折・ねんざ・脱きゅう

いずれも「安静第一」です。

骨折の疑いがあるとき

ケガの部分が不自然に変形している、腫れて痛みが激しい、骨が突き出ているなどの場合は骨折だと考えます。

- 1 動かさないようにして、傷や出血を手当でする。
- 2 骨折した部分の上下にある2つの関節まで固定できる副木などを当てる。



ねんざ・脱きゅうの疑いがあるとき

ねんざと脱きゅうの手当の方法は同じです。

- 1 ガーゼを当て、包帯を巻いて傷む関節を固定する。
- 2 めくれタオルや氷のうで患部を冷やし、安静にする。



やけど

やけどをしたら、すばやく的確な応急手当をすることが、何より大切です。手当の善し悪しが、回復に大きな影響を与えます。

手当の基本

- 1 できるだけ早く、清潔な水で冷やします。
- 2 患部を清潔なガーゼ等で軽く包みます。きっちり巻かないで、軽くおった端を洗濯バサミなどで止めておきましょう。

もしも… 1 水ぶくれができていたら

皮膚がはがれるのを防ぐため、清潔なタオルで患部をおおってから水につけます。

もしも… 3 広い範囲にやけどをしたら

そのまま水風呂に入れる、水に浸した清潔なシーツで包むなどして冷やします。また、体温が下がり過ぎないように注意します。

もしも… 2 皮膚と服がゆ着していたら

無理にはがしてはいけません。ゆ着した服の範囲をハサミで切り、そのまま清潔なシーツなどで患部を包んでから冷やしましょう。

❌ してはいけないこと

- 感染しやすくなるので、水泡をつぶさない。
- 患部に油や軟こうをぬらない。

人工呼吸と胸骨圧迫を組み合わせる生命維持を図ります。
AED（自動体外式除細動器）を用いた救命処置もあります。（出典：東京消防庁）

1. 肩をたたきながら声をかける



わかりますか？

2. 反応がない、又は判断に迷う場合は、
大声で助けを求め、119番通報と
AED搬送を依頼

誰か来てください！
人が倒れています。



あなたは119番通報し
てください。
あなたはAEDを持っ
てきてください。

3. 呼吸を確認する

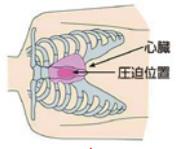


胸と腹部の動き
を見て、「普段
どおりの呼吸」
をしているか、
10秒以内で確認
します。

4. 普段どおりの呼吸がない、
又は判断に迷う場合は、
すぐに胸骨圧迫を30回行う



胸骨圧迫30回



胸骨圧迫は胸の真ん中

5. 訓練を積み技術と意思がある場合は、
胸骨圧迫の後、人工呼吸を2回行う

約1秒かけて、
胸の上がりが見
える程度の量
を、2回吹き込
みます。



人工呼吸2回

- 人工呼吸の方法を訓練していない場合
- 人工呼吸用マウスピース等がない場合
- 血液や嘔吐物などにより感染危険がある場合

人工呼吸を行わず、胸骨圧迫を続けます。

※人工呼吸用マウスピース等を使用しなくても感染危険は極めて低いといわれていますが、感染防止の観点から、人工呼吸用マウスピース等を使用したほうがより安全です。

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返して行います。

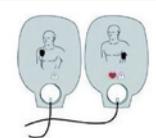
6. AEDが到着したら

まず、電源を
入れる。



ふたを開けると自動的に電源
が入る機種もあります。

7. 電極パッドを胸に貼る



電極パッドを貼る位置は
電極パッドに書かれた絵
のとおり、皮膚にしっ
かりと貼ります。
体が汗などで濡れてい
たら、タオル等で拭き取
ってください。



※おおよそ6歳くらいまでは、
未就学児用電極パッドを貼
ります。未就学児用の電極
パッドがなければ、大人用
の電極パッドを代用します。

8. 電気ショックの必要性は、
AEDが判断する。

離れて下さい。



心電図解析中は、
傷病者に触れてはけません。

9. ショックボタンを押す

誰も傷病者に触
れていないこと
を確認したら、
点滅している
ショックボタン
を押します。



ショックボタン

以後は、AEDの音声
メッセージに従います。

心肺蘇生とAEDの手順は、救急隊に引き継ぐか、何らかの応答や目的のあるしぐさ（例えば、嫌がるなどの体動）が出現したり、普段通りの呼吸が出現するまで続けます。

新しいガイドラインに基づき改正されたのは下の表のとおりです。（令和4年12月1日改正）

年齢区分		改正後		
		成人	小児	乳児
通報		反応がない場合、反応があるかどうか迷った場合又はわからなかった場合は、大声で応援を求め、119番通報とAED搬送を依頼する。普段どおりの呼吸がない場合、判断に迷う又はわからない場合は胸骨圧迫を開始する。		
心停止の判断		普段どおりの呼吸が見られない場合、又はその判断に自信が持てない場合は心停止と判断する。		
胸骨圧迫	深さ	約5cm 沈むまで		
	テンポ	胸の厚さの約1/3沈むまで 100回～120回/分		

2 地震のときはこうする

避難するときは

いつ避難するのか

大きな揺れがおさまり、身の安全が確保できたら、出火防止・初期消火に努めることが重要です。しかし、火災の延焼などの危険が迫ったら、安全な場所に避難します。

避難しなければならないとき

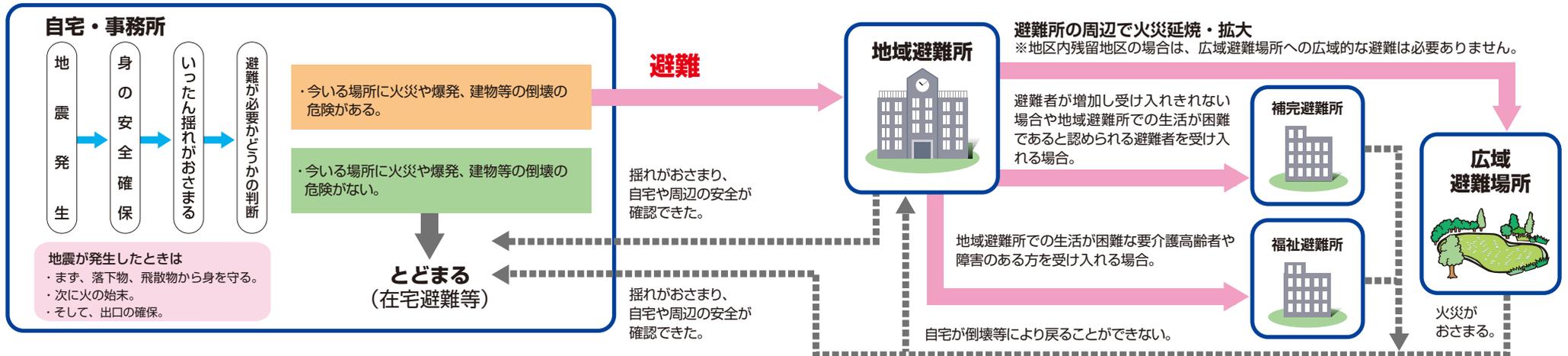
① 区の災害対策本部や消防、警察などの指示があったとき。
(ただし、自宅などの今いる場所に危険がない場合は、必ずしも避難所に避難しなければならないとは限りません。)

② 建物が倒壊するおそれがあるとき。

③ 隣近所で火災が発生し、延焼の危険があるとき。

④ 危険物の爆発や流出などのおそれがあるとき。

避難のしかた



どこへ避難するのか

地域避難所 (区立小・中学校、都立高校等 計38か所)

家屋の倒壊や、火災による延焼のため、自宅等に滞在が困難な場合に利用する避難所です。お住まいの近くの地域避難所に避難します。

◆**主な設備** 災害時用トイレ、特設公衆電話、井戸、防災倉庫、防災行政無線設備、応急給水栓

◆**主な機能** 災害対策本部が入手した情報を提供します。給水や支援物資の配給拠点となります。

補完避難所 (住区センター、社会教育館等 計47か所)

避難者が増加し、地域避難所では受け入れきれない場合や地域避難所での生活が困難であると認められる避難者を受け入れる場合に利用する避難所です。

福祉避難所 (特別養護老人ホーム、福祉工房、一部の区立保育園等 計25か所)

地域避難所での生活が困難な要介護高齢者や障害のある方、保護者が入院等により保育に欠ける状態にある乳幼児を受け入れる場合に利用する避難所です。

広域避難場所 (都が指定している8か所)

地域避難所周辺の火災の延焼・拡大や輻射熱から身を守るために、さらに避難が必要になった場合に避難する東京都が指定したオープンスペースです。地区内残留地区を除き、原則として、住所により避難先が指定されていて、風水害時には開設しません。

地区内残留地区 (都が指定している1か所)

不燃化が進んでおり、万が一火災が発生しても、地区内に大規模な延焼火災のおそれなく、広域的な避難を要しない地区です。本地区は、広域避難場所が割り当てられていません。

在宅避難など避難所以外の選択肢も

自宅の安全が確保され居住できる状態であれば、「在宅避難」をしましょう。

避難所では、多くの人が集まって生活をするため、プライバシーを守ることが難しくなったり、環境の変化によって体調を崩したりする恐れがあるほか、感染症などの感染リスクも考えられます。住み慣れた自宅での避難生活ができるよう、日ごろから備えておきましょう。自分が住む場所が危険かどうか、水害ハザードマップ（P55ページから）や地域危険度マップ（P65ページから）などで確認しておくことも重要です。

また、在宅避難以外にも親戚や友人など頼れる人が安全な場所にいる場合は、危険が去った後の分散避難の選択肢として検討しましょう。

家の中の安全チェックや備蓄品など、在宅避難のための備え P25ページから

防災地図アプリ <英語版も配信中>

目黒区防災地図アプリは、区の防災に関する情報をスマートフォンやタブレット端末で閲覧できる無料アプリです。

現在地（目黒区内）から最寄りの避難所までの案内や、災害時における避難所の開設状況などを確認できます。また、防災マップや各種ハザードマップなどの閲覧やプッシュ通知により区から発信する防災に関する情報を受け取ることができます。

さらに、インターネット通信ができない状態でも、地図情報を表示したり、GPS機能を使って避難所への方向を確認したりすることができます。

防災地図アプリは、アプリストアにて「目黒区防災地図アプリ」と検索し、事前にダウンロードすることで利用できます。



アプリ画面（イメージ図）



iPhone 用



Android 用

避難所開設・混雑情報

目黒区内の現在の避難所の開設状況や混雑状況、お近くの避難所までの距離やルートを確認することができます。



避難所開設・混雑情報
QRコード

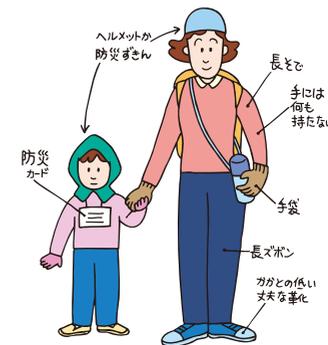
避難するときの心得

正しい情報のもとに行動を

- デマやうわさにまどわされない。「〇〇らしい」という不確かな情報を流すことは禁物であり、信じるのも危険です。区からの防災無線、警察署、消防署などの広報に注意を払いましょう。
- 一人ひとりが冷静に判断し、落ち着いて行動しましょう。

避難するときは

- ガスの元栓をしめます。
- 電気のブレーカーを落とし、通電火災を防ぎます。
- 窓・雨戸・扉をしめます。
- 外出中の家族がいる場合、連絡メモをのこします。



ペットと同行避難するとき

- 犬や猫などはケージに入れるか、首輪とリードをつけて行動しましょう。
- 犬には鑑札、狂犬病予防注射済票などを装着しましょう。
- 猫にも首輪に名札などを装着し、身元がわかるようにしましょう。

避難時の服装はどうするか

- 靴は、底が丈夫で歩きやすいものをはきます。
- 頭は、防災ずきん、ヘルメット、座布団などで保護します。
- 服装は、長袖の服、ズボンに手袋など素肌を露出させないで、ウールや綿など燃えにくく動きやすいものを着ます。

避難は集団で

- 家族そろって、隣近所で声をかけあいながら行動します。
- 乳幼児・高齢者・障害のある方・傷病者・日本語が理解できない外国人の方などの避難には、地域全体で協力します。

避難は徒歩で

- 避難は原則として徒歩で行います。車、オートバイ、自転車などの使用は大変危険で、緊急車両通行の妨げにもなります。車はエンジンを切ってキーはつけておき、ロックはしません。歩けない高齢者などがいる場合でも、車いすなどを使い徒歩で避難します。エレベーターも使いません。

安全なルート

- 落下物に注意し、塀ぎわ、自動販売機には近寄らず、狭い路地など危険な箇所を避けま。火災が発生している場合は、風向きに注意します。

2 地震のときはこうする

被災後の生活はどうなるか

自宅での生活

余震に注意する

被害を受けた建物に入る場合、余震により、さらに被害が生じないように注意が必要です。

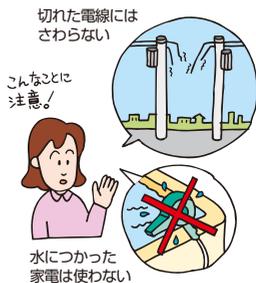
情報を手に入れるには？

- テレビ・ラジオの情報には常に注意を向けましょう。
- 区では、小学校や公園等に設置している防災行政無線から情報を流します。
- 地域避難所では、区からの情報などをお知らせします。



家族の安否確認の方法は？

- 災害用伝言ダイヤル171や、携帯電話各社の災害用伝言板などを活用します。☎81ページ参照
- 保育園、幼稚園、児童館、小・中学校などでは、保護者が引き取りにくるまで子どもを安全に保護します。



ライフラインはどうなるか

- 水道…水道管の破裂などにより断水することもあります。
- 電気…危険防止のため送電停止などの措置がとられた場合、停電が起こります。
- ガス…マイコンメーターが震度5程度で家庭への供給を遮断します。ガス管も、一定の揺れを感知すると遮断します。ガス漏れに気がいたら火気厳禁。換気扇や電灯をつけると火花で爆発するおそれがあるので、窓を開けて換気します。被災後にガスを使うときは、器具の点検をしましょう。
- 電話…地震直後には、一般回線の利用が制限されるため、電話は通じにくくなります。

道路・交通はどうなるか（第一次交通規制）

環状7号線内側（都心方向）への一般車両の流入が禁止されます。ただし、環状7号線は回路として、通行できます。

環状8号線内側（都心方向）への一般車両の流入が抑制されます。

「緊急自動車専用路」として、指定された7路線（国道4号線、17号線、20号線、246号線、外堀通り、目白通り、高速道路）では、通行禁止規制が実施され、警察・消防車両等の緊急車両のみの通行となります。

食糧などの生活必需品の確保はどうするか

区の備蓄品は避難所生活者を中心に配給されます。在宅被災者への食糧・水の配給や情報提供等は地域避難所を拠点として行います。

- 食糧・飲料水
 - 最低3日間分（7日分を目標）は各自で備蓄しましょう。
- 飲料水以外の生活用水
 - ふるの残り湯などは極力捨てない。
 - 食器はラップなどを敷くと洗わなくて済みます。
 - 「震災時協力井戸」の指定を受けている井戸は、持ち主の了解を得て、生活用水として使うことができます。
 - 公衆浴場では、営業に支障のない場合、店頭で生活用水を提供します。
- トイレ
 - 下水管が使える場合は風呂の残り湯などで流します。
 - 流せない場合は、ビニール袋などに入れ、自宅に一時的に保管します。
- ごみ対策
 - しばらくはごみの回収はできません。徹底したごみの少量化と分別を行ってください。



建築物の応急危険度判定を実施します

余震による二次災害を防止するため、区では、応急危険度判定員による被災建築物の危険度を判定します。判定結果は、ステッカーを入口などに表示します。危険と判定されたら、その建物には入らないようお願いします。



住家の被害認定調査を実施します

区では、各建物の被害について、応急危険度判定とは別に被害認定調査を実施します。これは、復旧対策や、罹災証明書発行のための資料となります。

罹災証明を発行します

「罹災証明書」は、住家の被害程度を証明するものです。災害により被害を受けた人が、税の減免や保険金の請求、融資など各種支援の申請をする際に必要となる場合があります。

義援金の受付・配分を実施します

東京都、区、日本赤十字社東京都支部などで受け付けた義援金は、区を通じて、被災世帯に公正に配分されます。

避難所での生活

倒壊・焼失により戻す家がない場合は、地域避難所で生活することとなります。
 地域避難所では、避難者、地域住民、区職員、教職員が役割分担をし、協力して自主的な運営に当たります。リーダー等の指示に従い、積極的に協力しましょう。



平常時から避難所運営について検討する避難所運営協議会（町会・自治会、住区住民会議、学校職員等施設管理者、PTA、区職員等による）を立ち上げ、マニュアル等を策定しておくことで避難所での生活が円滑に行われます。



避難所について

避難所の果たす役割

避難所の役割は、地震等の災害による家屋の倒壊、焼失などの被害を受けた者又は被害を受けるおそれがある者を一時的に施設に受け入れ、支援することです。また、在宅の被災者への情報提供なども行います。



【避難所を利用する被災者】

- ①家屋の倒壊・焼失等により、自宅では生活できない被災者（避難所生活者）
- ②食糧、水、生活物資、情報等を得るため避難所を活用する被災者（在宅被災者）
 ※避難所は、旅行者・帰宅困難者等居住地以外の被災者も受入れます。

Check!!

ペットの同行避難

地震が発生した場合、人間だけでなく、飼育されている多くのペットも被災することが想定されます。区は、開設した地域避難所内に、施設の状況に応じたペットの飼育場所を確保します。地域避難所内に飼育場所を確保することが困難な場合は、近接した地域避難所等に確保します。同行避難の対象ペットは、原則として犬、猫、ウサギ等の小動物です。
 なお、地域避難所では、飼い主による自主管理を原則としています。
 ※同行避難とは、飼い主とペットが同じ部屋で過ごすことや同居することを指すものではありません。

避難所の機能

避難者の安全・生活基盤の提供、保健衛生の確保、情報支援、コミュニティ支援の役割があり、このため必要な施設・設備・備品及び支援体制を検討します。

支援分野	支援項目	内容
安全・生活基盤の提供	① 安全の確保	生命・身体安全確保
	② 水・食糧・生活必需品の提供	水・食糧・被服・寝具・生活用品等の提供
	③ 生活場所の提供	就寝・安眠の場の提供 暑さ・寒さ対策
保健・衛生の確保	④ 健康の確保	健康相談等の保健機能
	⑤ 衛生的環境の提供	トイレ・入浴・ごみ処理、ペットの対応
情報支援	⑥ 生活支援情報の提供	営業店舗や開業医の情報
	⑦ 安否情報の提供	避難者の安否情報の提供
	⑧ 復興支援情報の提供	生活再建・仮設住宅・復興状況の情報
コミュニティ支援	⑨ コミュニティの維持・形成の支援	避難者同士の励まし合い、助け合い 従来のコミュニティの維持

地域避難所の運営者と役割分担

地域避難所には避難者、区参集職員、学校教職員、ボランティア、地域住民等多様な人が集まります。それぞれの役割を踏まえて、相互に協力して下表のとおり地域避難所を運営していきます。

	施設管理者	区職員	区民	その他
主体	・学校教職員 ・施設職員等	・区参集職員	・避難者 ・避難所運営協議会	・区内ボランティア ・区外ボランティア
役割	○ 施設の管理責任者 ○ 避難所運営本部立ち上げ支援 ○ 避難所運営本部への協力 ○ 施設機能の回復（授業の再開等）	○ 災害対策本部との連絡調整 ○ 避難所の情報把握 ○ 避難所運営本部立ち上げ支援 ○ 避難所運営本部への協力 ○ 要配慮者支援	○ 相互の助け合い ○ 避難所運営本部の立ち上げ ○ 避難所の運営 ○ 食糧、飲料水、物資の配給	○ 避難所運営への協力